

病害虫発生予報 第7号（10月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

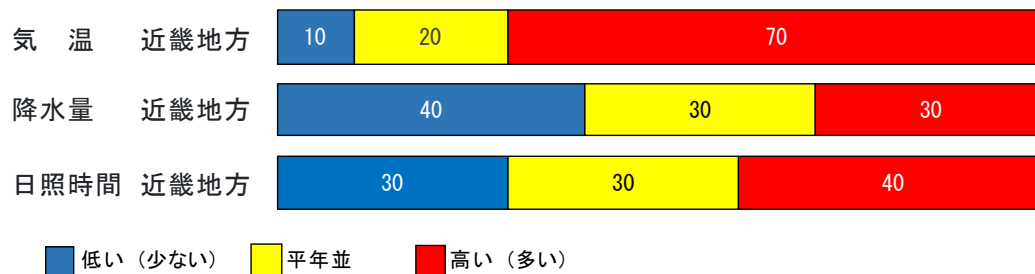
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	ハスモンヨトウ	やや多
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並		オオタバコガ	並
		並	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや多 並
アブラナ科野菜	コナガ	やや少	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 並 やや多 やや多 やや少
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	やや少 並 やや少 並 やや多		果樹全般	カメムシ類

気象予報

近畿地方 1か月予報（09/23～10/22）

2023年09月21日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 09/23～10/22	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
1週目 09/23～09/29	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 09/30～10/06	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 10/07～10/20	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、発病株率0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ③ 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。
- ② 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。
- ② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

<アブラナ科野菜>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市2頭（平年15.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 収穫後の作物残さが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率4%、生息葉率0.5%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は14%（平年22%）、生息葉率は0.6%（平年3.2%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は79頭（平年121.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが認められているので注意する。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は14%（平年13%）、生息葉率2.9%（平年2.7%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率10%、生息葉率1.7%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬のハダニ類の発生ほ場率は38%（平年27%）、生息株率は10.0%（平年10.1%）であった。

③ 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は29%（平年50%）、生息葉率1.1%（平年12.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は50%（平成26%）、生息株率は13.1%（平成6.5%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市45頭（平成57.4頭）、御坊市50頭（平成64.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は57%（平成15%）、生息葉率は2.9%（平成0.8%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は44%（平成19%）、生息株率は7.5%（平成3.0%）であった。

③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市303頭（平成573頭）、和歌山市1,655頭（平成1,217頭）、御坊市1,000頭（平成909頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は19%（平成11%）、生息株率は2.5%（平成2.1%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市7頭（平成10.5頭）、御坊市0頭（平成1.2頭）、印南町0頭（平成1.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
 - ② 収穫前の薬剤散布を励行する。
 - ③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は、無防除区0頭（平年0.4頭）、慣行防除区0頭（平年0頭）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場内を観察し、発生の増加がみられる場合は薬剤散布を行う。特に、9月に防除していないほ場では発生に注意する。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

<カキ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は19%（平年29%）、発病果率は0.8%（平年1.4%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病果は伝染源になるため、ほ場内を巡回し、発病果を速やかに除去して土中に埋める。
 - ② 発病果がみられるほ場や降雨が続くと予想される場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
 - ③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
 - ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多に注意するとともに、強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
 - ⑤ 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、ほ場内の環境改善に努める。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は63%（平年65%）、発病葉率は3.9%（平年10.0%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
 - ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努め

る。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は19%（平成8%）、発病葉率は0.2%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は50%（平成27%）、発病葉率は4.9%（平成2.1%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は44%（平成66%）、寄生果率は1.8%（平成7.8%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが7,427頭（平成524頭）、ツヤアオカメムシが1,190頭（平成266頭）、クサギカメムシが937頭（平成54頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが2,072頭（過去9年の平均388頭）、ツヤアオカメムシが1,438頭（同222頭）、クサギカメムシが125頭（同27頭）であった。

④ みなべ町東本庄の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが23,190頭（平成4,294頭）、ツヤアオカメムシが15,114頭（平成2,852頭）、クサギカメムシが680頭（平成143頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。

② ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。収穫が近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。

④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。

- ⑤ 令和5年9月22日発表の病虫害防除技術情報（第2号）を参照する。
- ⑥ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780